KYUSHU OLLE 九州 オルレ KYUSHU OLLE TRAIL

オルレオープニングイベント

先月、九州オルレ松浦・福島コースのオープニングイベントには700人が参加し、韓国からも64人が参加されました。鹿児島、熊本、大分、北九州、福岡、佐賀など、九州一円から多くの人々が集まりました。このイベントにより、九州にある19のオルレコースへの訪問者数がさらに増加することが期待されています。

参加者の60%は60〜70歳代の年配者であり、そのうち女性が70%を占めていました。イベントは経済にも波及効果があり、宿泊や飲食などで多くの利益が上がったそうです。また、コースの途中でアジフライなどの食事が提供され、福島玄蕃(げんば)太鼓(福島町地元の太鼓です)も披露されました。友田市長も参加し、大いに盛り上がりを見せました。

＜松浦市福島町観光地＞

イロハ島と桜

棚田の夕日

棚田

椿の自然林

福島町は、佐賀県伊万里市に隣接し、伊万里湾を望む静かな地域です。古くから農漁村として発展し、農業では長崎和牛とアスパラガス、漁業では車えびの養殖が有名です。

また、福島町は景勝地としても知られており、玄海国定公園のイロハ島、土谷の棚田、自生つばきなどがあります。

観光客の誘致にも力を入れており、オルレを通じて多くの人々が訪れます。福島町出身の有名人には、NHKの松尾剛アナウンサーがいます。

また、今村昌平監督の映画「にあんちゃん」の撮影現場であることでも知られています。福島町は、自然豊かな地域であり、観光スポットも豊富です。

長崎新聞記事(2023年1月26日付け)

九州オルレ「松浦・福島コース」のフィニッシュ地点となっている「日本の棚田百選」の土谷棚田(土谷地区)=松浦市福島

九州の魅力的なトレッキングコース「九州オルレ」に、長崎県松浦市福島町が新しく認定された。九州オルレとしては19カ所目、県内では南島原市、島原市に次いで3カ所目。友田吉泰松浦市長は「福島の豊かな自然と歴史が満喫できるコース。島内には温泉やグランピング施設、オートキャンプ場のほか、クルマエビなど新鮮な海産物もあり、交流人口の拡大に向けて福島の魅力を発信していきたい」とPR。

「オルレ」は韓国・済州島から始まった山歩きで、「通りから家に通じる狭い路地」という意味。オルレの魅力は、海岸線や山などの自然の風景、集落の路地などを自分なりにゆっくり楽しみながら歩くところにある。

九州オルレは「済州オルレ」の姉妹版で、九州観光機構が国内だけでなく、韓国など海外からの訪日客誘致を目的に進めている。認定には同機構の審査のほかに、本場の済州オルレ本部の審査を受けなければならない。

市は2017年度から取り組んでいる「福島全島公園化」事業の一環として、19年度からオルレ認定の取得を進めていたが、コロナ禍で済州オルレの最終審査が受けられない状況が続いていた。が九州オルレに認定されました。

長崎県ではまた、当初は福島をほぼ1周するコースを想定していたが、審査の過程で歩きやすさや安全性、景観ポイント、休息所(トイレ)などの面でコース全体を見直した。市福島支所をスタート地点に、玄海国定公園の景勝地・イロハ島を望む大山展望所、木造校舎が残る旧養源小、鍋串漁港から鷹島や遠く平戸の島々が見渡せる海岸線をたどりながら、「日本の棚田百選」に選ばれている土谷棚田がある土谷地区までの約10キロ、約4時間半のコースに短縮した。

済州オルレ本部の最終調査は申請をしてから3年越しの昨年10月にあり、いくつかの改善点の指摘はあったものの、12月 26日付で認定を受けた。市は今後、分岐点に標識、林の中のコースには目印となるリボン、急斜面に階段や手すりの設置などを進め、安全に万全を期す。

Matsuura Story ～松浦物語～ 2023 Spring No.7 (年4回発行予定)
Eminento 美しく生きる、力になりたい。 株式会社エミネント
東京都中央区日本橋小舟町9-18 TEL:03-5695-2088

～ 松浦物語 ～

Matsuura Story

エミネントの商品は大自然と歴史・文化が育む長崎県松浦市で生み出されています
本誌ではエミネントの工業紹介と共に長崎 / 松浦と周辺の魅力をお伝えしていきます

Spring 2023
No.7
Cover Photo
エミネント前バス停
松浦市志佐町浦免

にっぽんのいっぽん
こだわりの1/123
『複数の工程をこなし生産力を支える』

手作り商品紹介
手芸クラブ / 手作り雑貨

KYUSHU OLLE 九州 オルレ KYUSHU OLLE TRAIL

Eminento

にっぽんのいっぽん こだわりの 1/123

『 複数の工程をこなし生産力を支える 』

浜口　則子
（担当 32 年目）

自分の成長を感じられる

200人くらいが働いている工場の中の、いろんな工程をフォローする仕事です。短期的に人が足りていなかったり重点的に強化したかったり。あとはイレギュラーな流れを通常の流れに組み込む必要があるときに前段取りで準備したり。全体の流れを止めずうまいこと回せると、やったなと思います。

入社した当時は、縫い物ってどちらかというと嫌い、面倒くさいと思ってました。生活のためだけに働き始めたはずなんですけど、生産的なものづくりの仕事って自分が成長しているを感じられるじゃないですか。

試験に受かったとか査定が上がったとかそういうことだけじゃなくて、ミスしなくなったり、スピードがついてきたり。また新しい仕事を担当させてもらえるようになったり。他人の評価を気にしなくても、自分自身で、自分の成長を感じられる。昨日よりほんの少しでも上達したということがわかる。成功体験の積み重ねが、ここの仕事の楽しさですね。

山を見ながらＢＢＱ大会

松浦は最高ですよ。工場も自然の中にあって。ＢＢＱ大会もします。美しい山を見ながら、夜が更けていくのを、何十人という社員、その家族と楽しむんです。

県外の人に喜ばれるのは、海藻類ですね。アオサだったり、ところてんの材料になるテングサだったり、メカブだったり。松浦産の海藻類は大きくて食べ応えがあって味も濃いと言われます。私は島育ちなので当たり前だと思っていたんですけどね。

手作り商品紹介

松永理絵さんを中心に、全員が附属グループのメンバーとなって、四季折々に部署内を飾り付けし、癒しの空間を演出しています。

例えば、3月はひなまつりの桃の節句に合わせて、部署内にうさぎのひな人形を飾っています。このひな人形は、軍手を使用して作られているそうです。

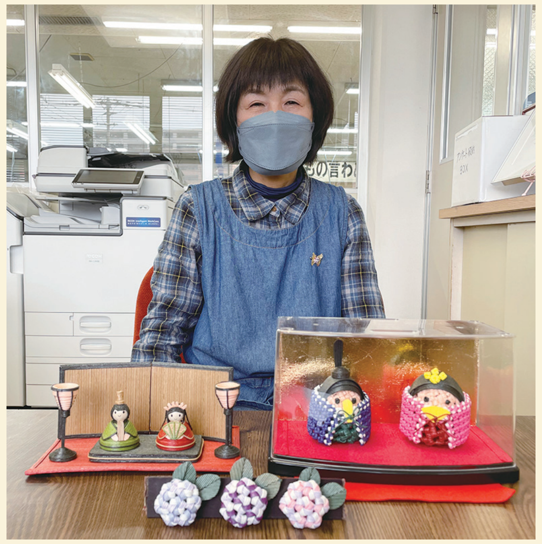
また、グループのメンバーたちは、バッグ作りにも熱心で、毎回様々なデザインのバッグを作成しています。今回は、ちょっとしたお菓子や小物が入るサイズのバッグを作成しました。

裁断・芯貼り・縫製を行って、約30分で仕上げています。

手芸クラブ

吉本正美（よしもと まさみ）さん	昭和58年3月7日入社	39年
市山美千代（いちやま みちよ）さん	昭和53年8月7日入社	44年
松永理絵（まつなが りえ）さん	平成18年7月26日入社	16年

手作り雑貨



松永みどり（まつなが みどり）さん　昭和61年11月21日入社　36年

クラフトテープを使って、季節に合わせた雑貨を作っています。かご編みの残りを活用して、様々なものを作り出しています。

例えば、3月には、2種類のひな人形を作り、従業員が通る通路や来客用の玄関口を彩っています。夏にはあじさいの形をしたマグネット、11月にはハロウィンの飾りなども作ります。そして12月には、リースなども作られます。

全て手編みで、本を見ながら道具を使わずに作られています。

マグネットは約40分で作れるものから、小さいひな人形は他の従業員と手分けして約4時間で作り上げています。最後にはニスを塗り、光沢と強度を出しています。